

達磨原合戦寒河江落城之事

一室に寒河江の城主寒河江四郎隆基と申る先
祖を慕ふに矢將頼朝公北河治世建久二年出羽の
国司として鎌倉より下し五ふ大膳大夫大江廣元の嫡
男大江親廣の末孫あり然るに是の隆基は其の属
せし故より亦寒河江をも責難せんとて發向りて
山形より二里を隔て中野の城を出城に捲入馬代息を
休めり隆基是を以て急ぎ長崎に出張し以城を
出城して達磨寺原まで防々進みとて一門の高松
左門安孫子内記畑沢上建横山監物等四人侍大將

とい橋間勘十郎曰痛子汝有將門大泉平左衛門等三
人右軍大將と相定三百余騎長崎より馳向ひ人馬を休
め達磨寺原より出合はに岡を仰け矢軍を始めける
早打物持原と成りて戦ひる寒河江の橋間勘十郎
大割殺の長刀此達者あり柯を三尺寸に捲くを其後
治と云雜音に持せざるか弓と取替長刀押取切立れ面を
合する者もあしる上の者人馬共に切落さる同者若將門
も亦うぬ若者橋間父子出るを以て恐れぬ者もあなり
あやふし鱗は破れし寒河江勢ハ鶴羽黒に連が
して射ありき陽に元き陰より石公秘術孫子秘法